

1 評価の実施期日 令和5年2月16日(木)

2 学校関係者評価委員
学校評議員と兼務

3 学校関係者評価の内容

- ・現況及び学校評価結果等
- ・特色ある教育活動等
- ・生徒の生活概況等
- ・各学年の進路概況

4 委員からの意見等

- ・校則について、頭髮規定など、「自由」ではなく、「自分達で考えて、きちんとした容儀にする。」ということであるが、良い傾向だと思う。
- ・東アジア歴史・中国語コースの3年生の進路実績は素晴らしく、全員第一志望に合格し、長崎県立大学や立命館大学等に進学する。次年度入学生9名のうち、5名が島内からであり、地域からの信頼の証であると考えられる。
- ・読書量の減少は小学校から始まっている。今後も工夫が必要である。
- ・保護者や生徒に情報モラルやSNSの取り扱いの研修を、事前防止の観点で行っているということであるが、現代における重要な課題であり、今後も研修が必要である。
- ・学校生活アンケートを年間5回実施し、いじめ対策委員会も行き、早期発見、早期解決に努めており、ヤングケアラーは、アンケートで把握した生徒と面談を行い、場合によってはSCやSSWと連携して対応しているということである。今後も継続して努めてもらいたい。
- ・公務員には9名が志望しており、8名が合格を果たし、高い合格率であった。今後も定期的に公務員講座を実施し、放課後に公務員ゼミナールからオンラインで公務員試験対策講座を継続的に実施し、公務員試験への準備を充実させてほしい。